

研究計画書

ゼミ名	林ゼミⅢ	チーム名	IKENAKA
タイトル	NO スマホ NO LIFE?		
テーマ群	a) 理論 情報		
メンバー	池中博紀 因幡和晃 川崎千代美 上島隆太郎 松井義章 小松瑛理 古宮杏奈 尾崎千蘭 湯元良平 岡田龍馬 岡奈津子 井上巧麻 石山正幸 足立浩基 須藤恵子 奥田耀士 太田のぞみ 栢田沙希 樋口歩の佳 松田洸哉		
研究計画内容	<p>世界のスマートフォン普及率は平成 24 年版情報通信白書によると 2012 年現在、34.4%であり、3 年後には 50%以上の方がスマートフォンを持つとされている。スマートフォンは上手く活用すれば私たちの日常生活をより豊かなものに変えてくれる。しかしながら、アプリに潜んだ危険性に気付かずに使っていたり、その利便性に魅せられて片時も手放せなくなってしまったりいる人がいるというのも事実である。このような過度な利用は豊かな生活とは逆にかげ離れていると言えよう。</p> <p>これを、私たちは『スマホ依存』と表すことにする。便利な道具として使い始めたつもりが、気が付けばスマホに生活を支配されていた・・・あなたは『スマホ依存』に陥っていないだろうか。</p> <p>ところで、私たちが使っているアプリは本当に安全なのかという疑問がある。スマートフォンを所持するだけで、電話番号・住所・位置情報などの個人情報知らず知らずのうちに流出していることを利用者は理解しているのだろうか。例えば、LINE というアプリでは、アドレス帳から LINE を使っている「友だち」が自動的に抽出されるためすぐに友人とつながり便利だが、個人情報流出の危険性が潜んでいるのである。</p> <p>私たちはスマートフォンの利便性に隠された危険性と、今後私たちがどう向き合っていけば良いのかを考えたい。</p> <p>スマートフォンはとても魅力的なデバイスである。しかし、私たちは適切な使い方を習っていないが故に、危険な目に遭ってしまったり、スマートフォンに依存してしまったりしている。本研究ではスマートフォン利用者を対象にスマホ依存とアプリ使用による情報流出への許容度を測るために、アンケートを実施する。その結果を元に、それらの相関関係を明らかにし、スマートフォンを便利な道具として責任を持って利用できるような使い方や、スマートフォンに依存しない上手な付き合い方を提案したい。</p>		